

この度は、このような機会をいただき、日本サイトメトリー学会関係者の皆様に感謝申し上げます。

私は現在、入職から3年が経ちました。入職当時より血液検査室へ配属され、2年が経過した頃からフローサイトメトリー（FCM）検査を日々の業務として行っております。今回、「サイトメトリー技術者認定の取得を目指す方々へ受験勉強の参考資料」ということで、認定試験を受験するに至った経緯、試験対策、講習会および試験の概要などについてお話ししたいと思います。

【受験するに至った経緯】

私は前述した通りFCM検査を日々の業務として行っておりますが、FCMを始めた頃から、結果の解釈が難しく、検査担当者によって結果の解釈や意義が大きく変わると感じていました。また、根本的な原理など必要な知識の不足も感じており、より意義の高い結果を報告するためにはさらなる技術および知識の習得が必要であると考え、サイトメトリー技術者認定試験を受験することを決めました。

【試験対策】

まず、サイトメトリー学会ホームページに掲載されている「認定サイトメトリー技術者筆記試験用到達目標」の回答を作成しました。基本的に「スタンダードフローサイトメトリー第2版」（医歯薬出版 発行）を中心に回答の作成をしましたが、理解の足りていない部分や関連した詳細な情報については、各メーカーのホームページなどインターネットを利用しました。普段の業務では細胞表面または細胞内部の抗原の解析を行っているため、DNAのFCMやソーティングについては用語の意味や原理など基礎的な部分から理解が困難な点が多く、重点的に勉強をしました。その後、サイトメトリー学会ホームページに掲載されている「Medical Technology誌 Vol.32より、チャレンジ認定試験」を模擬試験のように行うことで、問題の傾向と知識の定着度を確認し、間違えた部分を重点的に復習することを繰り返しました。

【講習会および試験の概要】

当日は、朝から夕方まで技術講習会が行われ、その後試験という流れでした。内容としては、血液やFCMの基礎、検体の取り扱い、検体の保存、精度管理、症例提示を含む臨床応用、ソーティング、DNAのFCM、イメージサイトメトリーなど

についてでした。基礎的なことから非典型例、最新の知見について数名の先生が説明してくださり、日常業務に直結するような内容を聞くことができ、大変有意義な時間でした。また、講習会の内容も後の試験に出題されました。

試験は基礎から応用まで広く出題されていましたが、「認定サイトメトリー技術者筆記試験用到達目標」の確認と当日の技術者講習をよく聞いていれば、問題なく解答できると思います。

当日は講習が朝から試験直前まであり、最後まで集中力を維持することが最も大変だと感じました。

【技術者認定試験の受験を通して】

私はFCMの理解を深めるために認定試験を受験しましたが、試験対策や講習会を通して、普段扱っていないDNAのFCMやソーティングなど、FCMに関する新しい知見を得ることもできました。

FCMは、膨大な情報を得ることにより、疾患の特定や治療効果判定など、その活用方法は多岐にわたります。他の検査でも同様ですが、FCMでは特に検体前処理や解析作業が重要であり、検査結果の解釈や意義が検査担当者の技量に大きく左右されると日々感じております。現在では、MRDなどより高い精度が要求されるため、それに応じてFCMを扱う技術の向上も必要になります。今回の認定試験で終わりではなく、これからも最新の知見を含む知識及び技術の習得を続けていきたいと思っております。

【最後に】

私も「サイトメトリー認定技術者合格体験記」を参考に試験対策を行いました。私の体験記が多少なりとも今後受験される方々の参考になれば幸いです。